

# 第12回みんなゆー新聞感想文コンクール作品紹介

「第12回みんなゆー新聞感想文コンクール」は小学3・4年生の部から高校生の部まで4部門に県内84校から1426点の作品が寄せられ、審査の結果、各部門でそれぞれ最優秀賞1点、優秀賞3点、入選5点の入賞作品と学校賞の3校が決まった。このうち最優秀賞、優秀賞に輝いた16作品を紹介する。【審査結果は11月14日付1、21面に掲載しました。敬称略】

コンクールは、児童生徒の広い視野と豊かな心を育む生きた教材として新聞を活用し、確かな表現力を身に付けてもらうため福島民友新聞社が実施している。「新聞掲載記事を読んで」の感想」をテーマに、福島校教育研究会国語部長の高橋健一・福島市立平野小学校長を審査長に、厳正な審査が行われた。審査員は次の通り。

- 審査長＝高橋健一(平野小学校長)▽副審査長＝千葉英一(北信中学校)▽審査員＝高橋敏哉(県教育庁高校教育課指導主事) 佐藤尚美(北信中学校) 野口有美(平野中学校) 菊田文彦(陸前中津市) 佐々木茉莉(県北中講師) 佐藤深鈴(小浜中教諭) 高橋尚人(東中教諭) 渋谷朋子(蓬萊東小教諭) 菅井昭一(平田藤芳小教諭) 菅野晃(本宮小教諭) 小野田司(福島民友新聞社取締役編集局長)

# 感動、興味、確かな表現で

## 戦争の記事を読んで



五川一小4年 小木 舜士

おばあちゃんにしかられて、昨日読んだ新聞記事の事を思い出しました。昼ごはんの時、煮玉子が一つのこぼれて、お兄ちゃんが半分はしゃいでくれたのですが、おばあちゃんに半分はしゃいでくれたので、お兄ちゃんが半分はしゃいでくれたので、おばあちゃんに半分はしゃいでくれたので...

戦争の記事は戦争の時はお米がなくて、さつまいもやじゃがいもを、はんこにまけて食べていたと書いてありました。それから、ぼくと同じくらいの年の人たちが、味のない汁に味噌を入れて食べていたり、お兄ちゃんも、おばあちゃんも、お兄ちゃんも、おばあちゃんも、お兄ちゃんも、おばあちゃんも...

ぼくは、この記事を読んで、今の生活は幸せだな、と思いました。食べたい時に好きな物を食べて、はらぺこで寝るの事を覚える事もありません。けれども、今の幸せな日本が、いつか、他国でも戦争やいよう不足で死んでしまったりする人がなくなるような世界になつてほしいです。ぼくが大人になったら、平和な世界をささぐっていきます。

## 各部門の入賞者

- 小学3・4年生の部  
 ◆最優秀賞◆ 小木舜士(五川一4年)  
 ◆優秀賞◆ 後藤優実(本宮まゆみ4年)  
 ◆入選◆ 宇野裕奈(福島3年) 宇野裕希(大島4年) 武田怜紗(三春3年) 羽田来民(柏城4年) 小滝タオ(行仁3年)  
 小学5・6年生の部  
 ◆最優秀賞◆ 鈴木綱陽(上道野6年)  
 ◆優秀賞◆ 門馬壮吾(杉妻6年) 佐藤敬斗(杉田6年) 長谷川慶佑(福島大付5年)  
 ◆入選◆ 須田紗也乃(柏城5年) 西條理一(柏城5年) 玉造巧士朗(玉井5年) 高橋美玲(杉妻6年) 市川大成(蓬萊東6年)  
 中学生の部  
 ◆最優秀賞◆ 桜井亮人(郡山52年)  
 ◆優秀賞◆ 星映地(郡山12年) 齋藤颯(郡山12年) 龜山ひかり(郡山53年)  
 ◆入選◆ 横山千夏(平野3年) 瀬川彩那(なみえ創成2年) 佐藤心奏(福島四2年) 渡辺多喜(植田東3年) 米本心優(中央台南3年)  
 高校生の部  
 ◆最優秀賞◆ 関根蒼海(福島商2年)  
 ◆優秀賞◆ 戒能李咲(安積黎明1年) 増子梢恵(学法石川2年) 佐藤葵(福島商2年)  
 ◆入選◆ 草野夏海(磐城2年) 綾川知紗(学法石川2年) 後藤智美(福島商2年) 梅宮彩心(福島商2年) 本間美結希(福島商2年)  
 ◇学校賞◇ 杉妻小、中央台南中、福島商高

## 審査長講評

福島地区小学校教育研究会国語部長 高橋 健一さん (福島市立平野小学校長)

## 広い視野で自分見つめる

本コンクールは新聞記事の感想文を書くことで、広い視野と豊かな心を養う目的で開催されています。本年度は、小・中・高合わせて84校1426点の作品が寄せられ、211点も多くの皆さまが参加してくださったことをうれしく思います。



小学3・4年生の部では、オリジンピックやコロナウイルスに関する作品が多く見られました。総合的な学習の時間で学んだことをもとにSDGsの記事を探して書いた作品も多く、問題意識の高さを感じることができました。記事中の写真に目を向けその効果

## 価値観の違い



郡山五中2年 桜井 亮人

いわき市の伝統芸能である「じゃんがら念仏踊り」が好問で実施されたそう。コロナにより、他の地域で中止する動きが相次ぐ中での実施だった。青年会は、ぎりぎりまで実施の可否に頭を悩ませたそうだが、「大切な人をしっかりと供養したい」という依頼者の思いに心を動かされ、実施に踏み切ったという。

最初にじゃんがら念仏の写真を見た時、コロナ感染者の増加が原因で行事が延期や中止されている中、なぜ実施したのかと正直疑問を抱きながら読み進めていったが、依頼者の方々、青年会の方々の温かい思いが伝わってきて、自分なりに納得することができた。

最近、このようにそれぞれの価値観を問われる事が、会に行きたくても思われの価値観の違いが自立つようにならなくてはならないかと思う。価値観の違う中で生活している。普段であれば、このまま価値観の違いが自立つようにならなくてはならないかと思う。価値観の違う中で生活している。普段であれば、このまま価値観の違いが自立つようにならなくてはならないかと思う。

## 4部門の最優秀賞

### 小学5・6年生の部



上道野小6年 鈴木 智陽

## 「リユース販売」の記事を読んで

「プラ、脱使い捨て社会へ」という記事で、「リユース販売」のことが紹介されていた。これは、使い終わった容器を回収し、洗浄して、再度その容器に商品を入れて販売することです。使い捨てプラスチックごみの削減を目指す活動だ。生活用品を売っている店や飲料店などで実験が行われているそうだ。ぼくは、この取り組みを多くの人々に知ってもらい、使ってほしい

と考える。しかし、一度他人が使った物を使うことに不安を感じる人もいられるだろう。特に最近では感染症予防の意識が高まっているので、使い捨ての方が衛生的だと感じる人も多いと思う。その問題を解決するためには、積極的な情報の提供が大事だと考える。しっかりと洗剤を付けることを知れば、不安がなくなる人もいるだろう。また、リユース商品を利用する商品を選ぶ時の参考にする

ることが出来る。消費者側も、新聞やインターネットなどで様々な社会問題やそれを解決しようとする企業の努力を知ったり調べたりすれば、自分の消費の仕方について考えることができるようになるはずだ。

### 高校生の部



福島商高2年 関根 蒼海

## バリアのない社会へ

火事の現場を見つけたら消防車を要請する。それがたとえ、知らない街の知らない建物だったとしても日本人は皆、そうすることができると私は思う。これは、勇気や正義感、ましてや優しさなどからではなく、あたりまえのこととしてある。では、困っている障害者を見つけたときに置き換えてみてはどうだろうか。

えとみてはどうだろうか。人々はまず、声をかけることに勇気や正義感、ましてや優しさなどからではなく、あたりまえのこととしてある。では、困っている障害者を見つけたときに置き換えてみてはどうだろうか。人々はまず、声をかけることに勇気や正義感、ましてや優しさなどからではなく、あたりまえのこととしてある。

う。しかし、私はこの事実と違和感を感じている。火事の通報は優しいからする訳ではないし、通報したら優しくなる訳でもない。通報も手助けも目の前の出来事や解決させようとしていられる面では同じである。より半身不随となったパラリンピアンが、カナダのインクルーシブ社会の実現には、日本はまだ伸びしろがあり過ぎる。こう語るのは、交通事故に巻き込まれたら、私にとっては馴染みのないことであるが、カナダのように障害のある人も地域コミュニティの中で成長が来ることを強く願う。

情報の氾濫する時代です。物事の見方を表面的、観念的にしないためには、新聞記事をよく読んで筆者の意図を正確につかむことも、その記事を出発点として家族と話したり、他の記事と比較したり、他紙の記事と比較したりしながら広い視野と豊かな心を育ててほしいと思います。